【授業科目】血液検査学特論　　Advanced clinical hematology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	4年次 後　期	選 択	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／血液学、血液検査学Ⅰ、Ⅱ及び実習について総括的な講義を行う。臨床現場で必要な重要なポイントを学修する。これまでは教科書に沿って知識を詰め込む学習であったが、本講義においては、実際の症例を用いた実践的な講義を行う。症例や検査データから、疾患を導き出すアウトプット重視の学修となる。実際の症例を見て、先ずどの様な疾患を疑い、どの様な検査をするべきかを考えることができるよう教授する。そして、所見及び、検査結果から考えられることや疾患を検討し、また、次に何の検査をするべきかを考え、学びを深める授業を展開する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法/各講義前の小テストは次回講義に返却及び、解説する。定期試験についてはフィードバックを行う。
実務経験に関する 授業内容	病院において臨床検査技師として血液検査部門にて実務経験を有する教員が、臨床現場において必要な血液検査学の知識及び、技術や、最新の知見などを教授する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①血液の基礎を理解できる。 ②血液疾患について理解できる。 ③血液検査について理解できる。 ④臨床検査値から血液疾患を推測できる。 ⑤血液塗抹標本、骨髄塗抹標本の画像から疾患を推測できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	病気がみえる vol.5 及び、vol.6 を参考書として推薦する。血液疾患のメカニズムについて分かりやすく記載しているため、基礎を理解しながら興味深い病気のことを詳しく学ぶことができる。 第 1～15 回事前学習：血液学、血液検査学Ⅰ、Ⅱ、血液検査学実習Ⅰ、Ⅱの内容を復習する。（120分）。 第 1～15 回事後学習：授業内容を復習する。要点をまとめる（60分）。授業で実施した小テストを復習し理解するまで調べる。不明な点は質問に来る（60分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　血液とは何か －性状と機能－ 第 2 回　赤血球の機能と機能異常 第 3 回　赤血球の形態と形態異常 第 4 回　赤血球の生化学と代表的疾患（貧血について） 第 5 回　白血球の機能と機能異常 第 6 回　白血球の形態と形態異常と代表的疾患（造血器腫瘍について） 第 7 回　血小板の機能と機能異常、出血性素因 第 8 回　凝固のしくみと凝固異常症、線溶のしくみと血栓性素因など 全て高崎
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験 70%、授業内小テスト 30%　授業態度も加味する。
教科書	奈良信雄著『臨床検査学講座血液検査学』 医歯薬出版株式会社
参考書等	『病気がみえる　vol.5血液、vol.6　免疫・膠原病・感染症』 メディックメディア
学生への メッセージ	血液学の基礎を踏まえたまとめ学修になります。血液学の知識を十分に生かし、様々な疾患について、臨床検査と関連付け考えていきましょう。